

株主メモ

決算期日	3月31日
利益配当金および中間配当の受領株主確定日	3月31日および9月30日
株主総会	定時株主総会 6月 臨時株主総会 必要ある時
名義書換代理人	東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 ☎(03)3323-7111(代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および 全国各支店
株主権利行使基準日	3月31日 そのほか必要あるときは公告します
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞

郵便貯金口座配当金受取サービスのご案内

次回の配当金から、銀行口座に加え、郵便貯金口座(通常貯金口座)へのお振込によるお受け取りができるようになりましたので、ご希望の株主さまは、下記名義書換代理人あて配当金振込指定書をご請求のうえ、お申し込みください。

株式手続き用紙のご請求について

住所変更届、名義書換請求書、単元未満株式買取請求書および配当金振込指定書の各用紙のご請求は、名義書換代理人の以下のフリーダイヤルおよびホームページにて受け付けています。

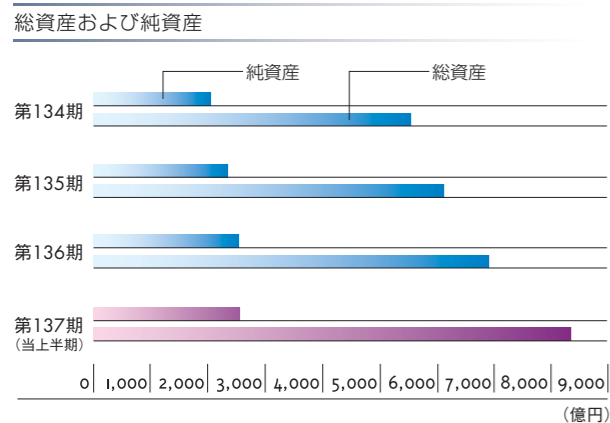
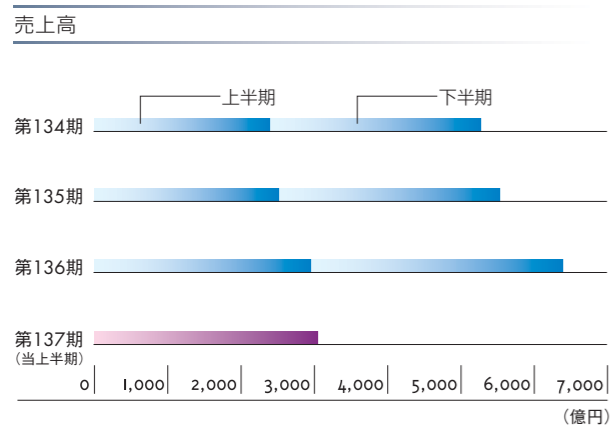
- 事務のお取扱い(電話お問い合わせ・郵便物送付先)
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部(証券代行事務センター)
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
電話:03-3323-7111(9:00~17:00)
フリーダイヤル:0120-87-2031(24時間受付)
ホームページ: http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
- ◇証券保管振替制度をご利用の方は、お取引の証券会社へご照会ください。



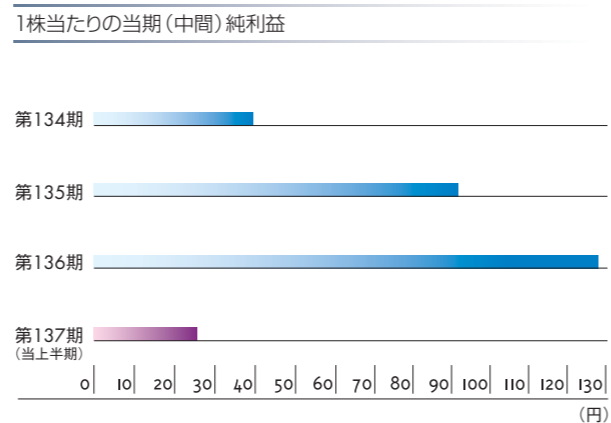
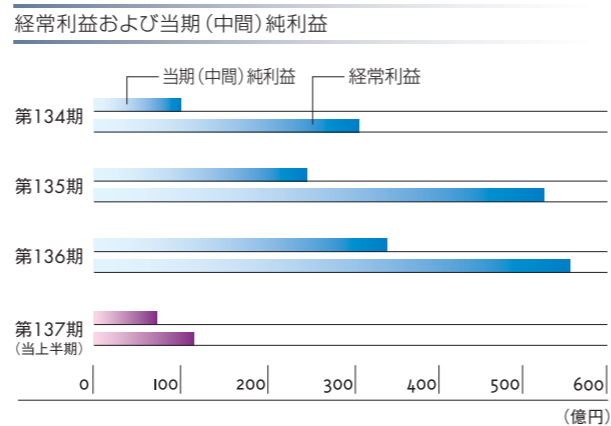
A CLEAR VISION FOR THE FUTURE

Photo by Mitsuaki Iwago

連結決算業績の推移



第134期 平成13年4月～平成14年3月
 第135期 平成14年4月～平成15年3月
 第136期 平成15年4月～平成16年3月
 第137期 平成16年4月～平成16年9月(当上半期)



当事業報告は連結決算を中心とした内容としています。
 特に記載がない場合、数値は連結ベースによるものです。

(注)この報告書は次により記載しています。 1. 百万円単位の表示金額は、連結については、百万円未満を四捨五入、単独については、百万円未満を切り捨てています。
 2. 千株単位の表示株数は、千株未満を切り捨てています。



<表紙写真/カナダ バンフ国立公園>
 撮影：動物写真家 岩合光昭氏
 オリンパスのデジタル一眼レフカメラ「E-1」を使用。
 (ZUIKO DIGITAL ED14-54mm, f4.5, 1/250sec.)

株主のみなさまへ



第137期中間事業報告をお届けするにあたり、株主のみなさまの平素からのご支援に心からお礼申し上げます。

当上半期の連結売上高は、全事業分野とも前年同期に比べ増収となりました。しかしながら、利益面では、デジタルカメラ分野における採算低下の影響で、前年同期に比べ減益となりました。

中間配当金につきましては、株主のみなさまへの安定的な利益還元という基本方針のもと、1株につき7円50銭といたしましたのでご報告申し上げます。

本年10月、当社は創立85周年を迎えました。今後も引き続き、高い付加価値を有する製品やサービスを創造し、社会のみなさまにタイムリーに提供できる「価値創造企業」を目指してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年12月

代表取締役社長 菊川 剛



「企業体質の強化と戦略的投資で、
ソーシャル・イン
Social INを実現する
価値創造企業でありつづけます」

代表取締役社長 菊川 剛

Q1 当上半期(平成17年3月期中間)の業績
について、総括をお願いします。

当上半期の売上高は、販売体制の強化などの施策が実を結び、映像、医療、ライフサイエンス、産業の全分野とも前年同期に比べ、増収となりました。しかしながら、利益面では大変不本意な結果となりました。これはデジタルカメラ事業において他社との競争が一段と熾烈化し、販売価格が低下したことが影響しました。デジタルカメラ市場の変化のスピードが従来にも増して非常に速くなっています。医療、ライフサイエンス、産業の各事業は順調でしたが、今回の結果を真摯に受け止め、諸課題の解決を図っていきます。

当社は、平成13年の社内カンパニー制と執行役員制の導

入から本年10月の映像事業、医療事業の分社化に至るまで様々な経営改革を行ってきました。これらの改革はすべてオリンパスグループの企業価値最大化を目指したものであり、着実に成果を上げてきました。市場からいわゆる「勝ち組」企業として認知していただいていたと思います。この度の減益によって株主のみなさまを始めステークホルダーのみなさまにはご心配をお掛けしました。現在、各事業領域において、新しいコンセプトの製品・サービスを次々と発表し、市場から高い評価をいただいておりますので、巻き返しを図りたいと考えています。

Q2 デジタルカメラ事業の収益体質の構築について教えてください。

業績回復のためだけでなく、これまでの内視鏡依存の収益体質から脱却するためにも、デジタルカメラ事業はさらに強化していかなければなりません。そのためにまず一つ目として、世界中のマーケットのニーズに即対応できる組織体制を構築し経営のスピードを上げていく必要があります。デジタルカメラ市場の急速な変化に対応できる組織作りです。これが今回の分社化の目的です。二つ目は今秋発売したデジタル一眼レフ「E-300」のような高付加価値商品によるオリンパスブランドの確立です。三つ目はソリューションビジネスの立ち上げです。単純にカメラやプリンタだけを提供するのではなく、それらを用いた新しいライフスタイルそのものを提案していきます。これは「i:robe(アイロープ)」、「m:robe(エムロープ)」という新ブランドで展開していきます。四つ目は収益性の改善です。サプライチェーンマネジメントの構築をスピードアップさせ、開発と製造が一体となった原価低減努力を行うとともに、価格競争に巻き込まれにくい高付加価値商品を投入することです。V字回復を果たすためにはこれらの施策を確実に遂行することが不可欠と考えています。

Q3 映像事業以外の今後の戦略について教えてください。

医療事業では、「医療業界で最も尊敬されるブランドになる」を合言葉に、分社化によりさらなる成長を目指します。分社各役員の実任と権限を明確にし、スピーディに業務執行します。世界トップシェアの消化器内視鏡での収益を拡大し



< E-300 >
初めてデジタル一眼レフカメラを使う人にも、簡単に一眼レフならではの撮影を楽しむことができるように開発された、新しいデザインの普及型レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ。

ていくことはさることながら、内視鏡トップメーカーの役割として、新しいビジネスモデルを提案することにより、お客さまである医療従事者の方々のニーズや患者さまのクオリティ・オブ・ライフ向上に貢献しなければなりません。新技術への先行投資や、BRICs(ブラジル・ロシア・インド・中国)と呼ばれる成長著しいマーケットへの戦略的投資も積極的に進めていきます。また、外科や内視鏡処置具などの分野において、世界中の市場を対象に、販売要員の増強と組織再編による販売体制の強化や、他社との提携を行い、市場拡大を目指していきます。

ライフサイエンス事業については、主軸事業である顕微鏡を中心とした生物化学事業と臨床検査事業を収益源に、次世代の医療を担うバイオ戦略による両事業の進化をスピードアップさせ、成果獲得を目指します。

産業事業については、企業の設備投資回復を背景に、工業用顕微鏡を中心として需要が増加したことに加え、工業用内視鏡の新製品が好調だったことや、フラットパネルディスプレイ検査装置の原価低減等により、当上半期は黒字化することができました。今後も事業の効率向上と、低コスト体質化をさらに推進し収益性を確保します。将来性が期待される、理想科学工業株式会社と業務提携して進めてきたプリンタ事業や市場拡大のための投資も引き続き積極的に進めていきます。

Q4 当上半期に連携を益々強めたITX株式会社との事業戦略について教えてください。

これまでも、当社のコアコンピタンスである「オプト・デジタルテクノロジー」つまり、「光学技術、デジタル映像技術、微小加工技術」および各事業におけるグローバルな販売力・ブランド力と、ITXの強みである新規事業創出能力、事業育成力を活かし、既存事業における競争力強化と新規事業の発掘と開発を連携して行ってきました。今後、この動きをさらに強化し、将来の中核事業となる新規事業の確実な創生と、現在手がけている独自の安定収益事業を複数確立することで、収益基盤を強化します。ITXの強みを取り込むことで、オリンパスグループの企業価値最大化に確実に結びつくと考えています。すでに医療事業における新ビジネスモデルの探索等に大きな進展が見られ、連携シナジーが現れています。

Q5 あらゆる場面でCSR (Corporate Social Responsibility)が脚光を浴びるようになっていますが、オリンパスにとってのCSRとは何ですか？

大正8年に日本初の国産顕微鏡を開発、昭和25年に世界初の胃カメラを実用化というように、当社の事業の原点自体が「社会の役に立つ企業であれ」という精神に基づいています。また当社は、以前より「Social IN」という経営の基本思想を掲げ、価値創造企業を目指してきました。「Social IN」とは、当社独自の造語ですが、生活者として社会と融合し、価値観を共有しながら、事業を通して新しい価値観を提案して、人々の健康と幸せな生活を実現することを意味します。昨今、相次ぐ企業の不祥事や地球環境への関心の高まりから、CSRへの取り組みが企業の価値



を決定する要素として、重要視されるようになってきました。そのような中、当社は、グループ全体の企業活動の原則を明確にするために、「オリンパスグループ企業行動憲章」を本年9月に制定しました。さらに、国連のグローバル・コンパクトにも参加しました。この憲章を各領域における基本方針として、今後も品質、環境への取り組み、コンプライアンス体制の整備を実施して企業体質を強化したうえで、当社の技術・人材・ネットワーク等を活用して、事業に根ざした当社ならではの社会貢献を実践して行きたいと思えます。

Q6 菊川社長が、会社経営で日頃大切にしているものは何ですか？

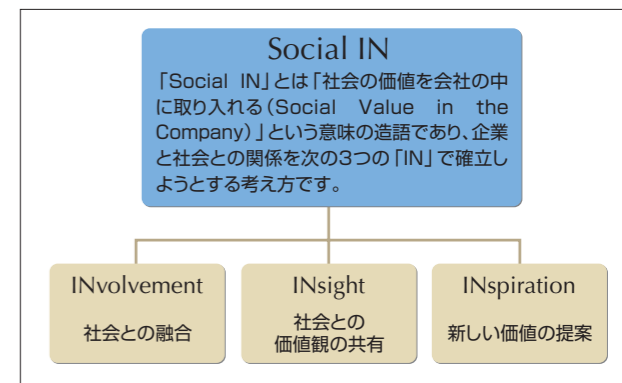
“株主さま、お客さま、お取引先、従業員、地域社会といった全てのステークホルダーとWIN-WINの関係を築く”というコーポレートブランド経営の実践を重視しています。「社会の役に立つ企業であれ」、つまり「尊敬される企業」であるための究極の基礎は、企業文化・風土にあり、社員一人ひとりの資質が企業の資質を形成すると言えます。ですから私は折に触れて、「やるべきことはやる！してはならないことはしない！自己規律とリーダーシップの発揮」という“徹底三原則”を社内に徹底し、日常業務を遂行するうえで、緊張感や健全な危機感を維持できる企業風土を築き上げています。



＜地域に根ざした社会貢献「わくわく科学教室」の開催＞
子供たちの科学への興味を育てようという趣旨で小・中学生対象に開催している科学セミナー。実験や工作を通して科学の面白さ、不思議さを伝えるのは従業員ボランティアスタッフ。

Q7 オリンパスが今後目指しているのは、どのような姿ですか？

“Your Vision, Our Future”、「夢を創り、実現する力」をスローガンとして世界の人々から「グローバル優良企業」として認めていただける企業にしたいと思えます。そのために、当社の経営理念「Social IN」に基づき、ひたむきに挑戦を続け、ステークホルダーのみなさまのご期待に応えていきたいと思えます。





国連グローバル・コンパクトに参加 ～人権、労働、環境、腐敗防止における10原則を支持

当社は、国際連合(国連)が提唱する人権、労働、環境、腐敗防止における10原則に賛同し、「グローバル・コンパクト」への参加を表明しました。

「グローバル・コンパクト」(Compact=協定、同意)は、平成11年1月に開かれた世界経済フォーラムの席上、コフィー・アナン国連事務総長が提唱し、平成12年7月に国連本部で正式に発足したもので、グローバル・

コンパクトに参加する世界各国の企業に対して、人権、労働、環境、腐敗防止の分野における10原則を支持し、実践することを求めています。日本で20社、全世界では1,700社余りが参加しています(平成16年10月1日現在)。



10月15日に実際にアナン国連事務総長に向けて、当社から送った書簡。

当社は、「Social IN」という考え方を企業活動の基本思想と位置づけ、「社会とともに歩み、社会とともに成長していく価値創造企業」を目指してきました。ISO14001取得や環境配慮型製品を導入するなど環境に対する取り組みを進めるとともに、平成15年には協賛する「A day in the Life of Africa」の写真展の収益をエイズ教育プログラムに寄付するなど、国連とのコラボレーションも実施しています。今回のグローバル・コンパクトへの参加は、こうした経営姿勢を明確にしCSRへの取り組みを加速するためのものであり、今後、グローバル・コンパクトに参加する他社との相互啓発の機会も活用しながら、企業活動にグローバル・コンパクトの10原則を組み入れ実践することにより、社会の持続的発展に寄与するグローバル優良企業を目指していきます。

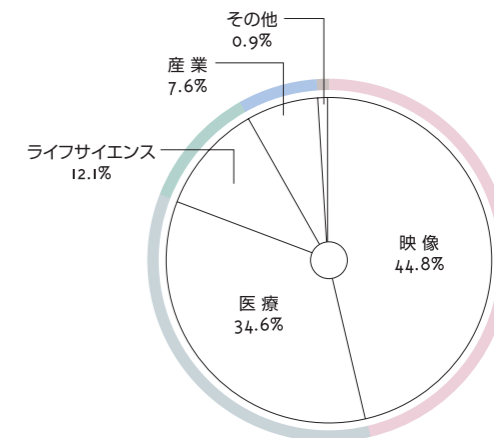
業績の概要

当上半期の売上高は、欧州をはじめとする海外において、デジタルカメラが市場の拡大に合わせて続伸したことや医療事業が好調だったことに加え、ライフサイエンス、産業事業でも順調に販売を伸ばしたことから、前年同期比3.0%増の3,087億23百万円となりました。

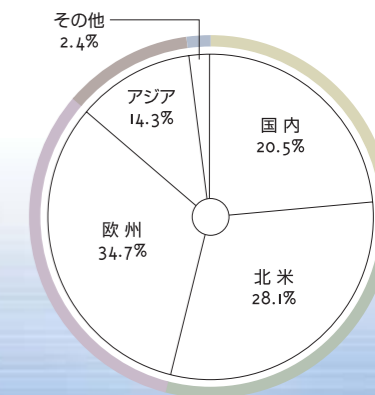
利益面では、デジタルカメラの低価格化の影響により、営業利益は前年同期比45.4%減の182億84百万円、経常利益は前年同期比56.1%減の114億32百万円、中間純利益は前年同期比56.7%減の67億8百万円となり、大変厳しい結果となりました。

なお、単独決算におきましては、売上高は前年同期比1.8%増の2,104億26百万円、営業利益は前年同期比83.0%減の28億31百万円、経常利益は前年同期比76.7%減の35億93百万円、中間純利益は前年同期比62.0%減の37億63百万円となりました。

事業別売上比率



仕向地別売上比率



● 映像事業
Imaging Systems



<μ-mini DIGITAL>
レンズバリア部の凹凸を完全になくした新機構「トップシェルバリア」を採用。「しずく」をイメージしたスタイリッシュなデザインに、生活防水機能をプラス。

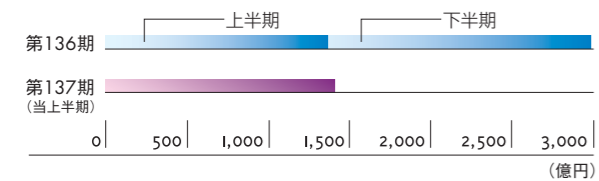
デジタルカメラ分野は、コンパクトデジタルカメラ「μ DIGITAL (ミューデジタル)」シリーズやデジタル一眼レフ「E-1」を中心に販売を展開し、国内では減収だったものの欧州とアジアでの伸びにより売上は微増となりました。

フィルムカメラ分野は、欧米やアジアで中低価格機を中心として市場シェアは大幅に向上したものの、減収となりました。

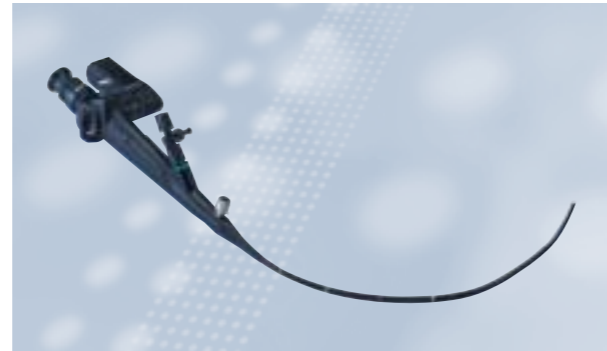
また、録音機分野は、市場規模の伸びが鈍化するとともに競争が激化し、減収となりました。

この結果、映像事業の売上高は1,382億6百万円(前年同期比0.2%増)となりましたが、デジタルカメラの低価格化による採算低下により、29億8百万円の営業損失(前年同期は123億88百万円の利益)を計上しました。

■映像事業の売上高の推移



● 医療事業
Medical Systems



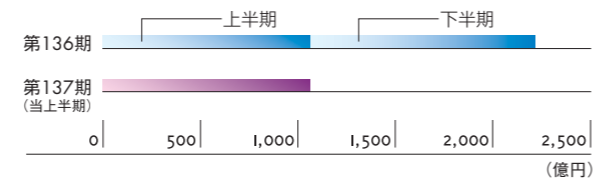
<OES膀胱腎盂ファイバースコープ CYF-5A>
新設計の砲弾型先端形状で挿入性向上と苦痛低減を目指した軟性膀胱鏡。

医療用内視鏡分野は、国内においては主力の内視鏡システム「EVIS LUCERA(イーヴィス ルセラ)」の販売を強化し、特に高付加価値なハイビジョン対応機種の上昇率が向上しました。海外では欧州や米国において同じく「EVIS EXERA(イーヴィス エクセラ)」の販売により、前年同期並みの売上となりました。

外科や内視鏡処置具などの分野は、世界規模での販売体制を強化することにより、ディスプレイ製品を中心として売上が拡大しました。

この結果、医療事業の売上高は1,069億54百万円(前年同期比1.0%増)となりましたが、営業利益は外科分野の販売体制強化およびカプセル内視鏡への戦略投資費用の発生等の影響により、296億23百万円(前年同期比1.3%減)となりました。

■医療事業の売上高の推移



● ライフサイエンス事業
Life Science



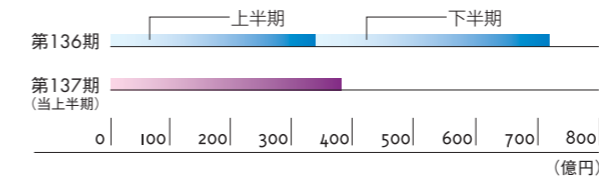
<共焦点レーザー走査型顕微鏡 FLUOVIEW FV1000>
世界初、ツインスキャンシステムを搭載。生きた細胞へレーザーによる光刺激とその反応の同時観察が可能に。

バイオサイエンス(生物科学)分野は、新製品の共焦点レーザー走査型顕微鏡「FLUOVIEW FV1000(フロービュー エフバイ1000)」や顕微鏡デジタルカメラが高く評価され、特に海外での販売が好調で増収となりました。

ダイアグノスティックシステムズ(臨床検査)分野は、国内や米国で大型の生化学分析装置を中心に伸長したほか、欧州で販売強化を図ったことにより増収となりました。

この結果、ライフサイエンス事業の売上高は374億86百万円(前年同期比12.6%増)、営業利益は13億31百万円(前年同期比34.2%増)となりました。

■ライフサイエンス事業の売上高の推移



● 産業事業
Industrial Systems



<工業用ビデオスコープ IPLEX MX>
小型・軽量ボディで携帯性抜群、手元の「ジョイスティックレバー」で誰でも簡単操作が可能に。「2004年グッドデザイン賞」金賞を受賞。

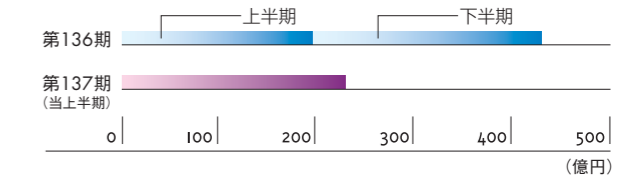
工業用機器分野は、国内外ともにフラットパネルディスプレイ検査装置、工業用光学顕微鏡等が好調だったことにより、増収となりました。

工業用内視鏡分野は、新製品「IPLEX MX(アイプレックス エムエックス)」が国内や米国を中心として順調に推移し増収となりました。

その他情報機器分野は、OEM先へのバーコードスキャナ関連の販売が好調に推移したこと、理想科学工業株式会社と業務提携して開発した高速プリンタの出荷が本格化したことなどにより、増収となりました。

この結果、産業事業の売上高は233億99百万円(前年同期比18.6%増)、営業利益は売上高の増加と原価低減が寄与して前年同期の営業損失から一転して黒字化し、3億79百万円(前年同期は25億18百万円の損失)となりました。

■産業事業の売上高の推移



● その他事業
Others

その他事業の売上高は26億78百万円(前年同期比5.9%減)、営業損失は3億83百万円(前年同期は2億85百万円の損失)となりました。

オリンパスの創造する新たな価値、技術力、製品力を、広くステークホルダーのみなさまにご覧いただき、オリンパスの未来を感じていただき、創立85周年記念オリンパステクノロジーフェアが、平成16年12月1日～3日の3日間、東京国際フォーラムにて盛大に開催されました。

本展示会のテーマは、コーポレートスローガンと同じく「Your Vision, Our Future」。
夢を創り、実現する力を各ゾーンで表現しました。
各事業が発表した技術の一部をご紹介します。



<オリンパス E-システム>

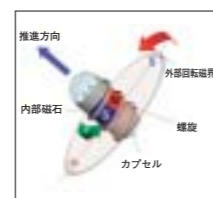
■映像事業「感動創造の新世界へ」

全てがデジタル専用設計、高解像力・広ダイナミックレンジ・低ノイズ、忠実な色再現レンズ群、撮像素子のダストリダクション機能、堅牢防滴ボディなど、プロも納得する高画質と機動性を実現した“オリンパスE-システム”と、その新製品“E-300”を紹介しました。



<カプセル内視鏡>

■医療事業「ガンの克服と、人に優しい医療へ」



「全方位誘導」技術

「錠剤を服用するように、もっと簡単で負担の少ない内視鏡検査を」という長年の夢を叶えるために、“カプセル内視鏡”のキーテクノロジーとなる「全方位誘導」や「自走機構」などの先進技術を紹介しました。



<高速原子間力顕微鏡>

■ライフサイエンス事業「生物現象の解明から、次世代医療へ」



水中で動くタンパク質やDNAを動画で観察

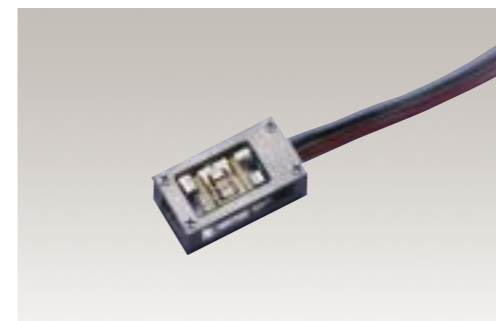
従来は静止画でしか観察できなかったタンパク質やDNAを、水中で動画観察可能にすることで、タンパク質の機能解明を始め、創薬、治療、臓器再生の研究に大きな貢献を果たしている原子間力顕微鏡の技術を紹介しました。



<ナノサーチ LEXT™ OLS3500>

■産業事業「パートナーと共に、先進価値を社会へ」

一台でミリからナノ単位までの観察、計測を実現するために、光学顕微鏡、レーザ共焦点顕微鏡、プローブ顕微鏡の機能を統合した複合顕微鏡“ナノサーチLEXT™ OLS3500”を紹介しました。



<MEMSミラー>

■研究開発センター「明日のオリンパスへ」

従来の加工法では作成できない微小で精密なユニットの製造などを可能にする、半導体加工技術を用いた、次世代の微小機能や電子回路を集積したデバイス/モジュール“MEMS”の技術を紹介しました。

新コンセプトのデジタルカメラ「i:robe」シリーズと、音楽と写真を自由に組み合わせて楽しむ、全く新しいHDD-motionミュージックプレーヤー「m:robe」シリーズがついに発売されました。

いつでもどこでもお気に入りの「映像 (image)」や「音楽 (music)」を「身にまとう (robe)」という設計思想からネーミングされた新ブランドは、今までにない音楽や映像の楽しみ方を提案し、お客様のライフスタイルに新しい価値を創造します。

i:robe Dock & Done!

写真生活をもっと簡単に快適に！そして楽しく！「i:robe」は、デジタルカメラと周辺機器の接続や操作を「より簡単に、より楽しく」行うことができる新しいコンセプトのデジタルカメラです。「i:robe IR-500」は、360度回転するマルチスイングディスプレイで、自分撮りなど様々なシチュエーションで撮影できます。撮り終わったら、専用クレードルに置くだけで (Dock)、ハードディスクストレージ「S-HD-100」への保存や、デジタルフォトプリンタ「P-S100」での印刷の作業を、パソコンを介さずに完了 (Done) させることが可能になり、手軽に多様な場面、ニーズに対応します。

Dock & Doneシステムのラインアップで、「撮る」「見る」「残す」「探す」「観る」「飾る」「渡す」といった写真本来の楽しみ方をより手軽に行えるようになります。



<i:robe IR-500>



<P-S100>

<S-HD-100>



<m:robe MR-500i>



<m:robe MR-100>

m:robe REMIX YOUR IMAGES.

人々の大切な思い出を残す写真。その一枚一枚を、もっと鮮やかに、もっと楽しく再現する方法はないだろうか？その思いは、私たちに音楽との出会いをもたらしました。

HDD-motionミュージックプレーヤー「m:robe MR-500i」は、音楽と写真を自由に融合させて楽しむ新感覚、20GB HDD内蔵のミュージックプレイヤーです。音楽の再生を楽しむだけでなく、撮影モードではファインダーの大画面液晶をタッチして撮影するという新しい撮影スタイルを採用しています。さらに、お気に入りの音楽と写真を、自分で自由に組み合わせることで、簡単にオリジナルの映像を編集・再生できる「リミックスプレイモード」を搭載しています。

また、小型サイズながら5GBのHDDを内蔵し、約1,200曲の音楽が記録できる音楽再生専用モデル「m:robe MR-100」も同時発売しました。

いずれも白を基調に、白磁器をイメージしたデザインで統一しました。さらに、タッチパネル (m:robe MR-500i) / タッチパッド (m:robe MR-100) 式ユーザーインターフェースにより、簡単操作で音楽と写真の新しい楽しみ方を手に入れることができます。

中間連結貸借対照表

科 目	決 算 期		科 目	決 算 期	
	前中間連結会計期間末 平成15年9月30日現在	当中間連結会計期間末 平成16年9月30日現在		前中間連結会計期間末 平成15年9月30日現在	当中間連結会計期間末 平成16年9月30日現在
	金額	金額		金額	金額
(資産の部)	百万円	百万円	(負債の部)	百万円	百万円
流動資産	402,174	487,308	流動負債	289,726	372,188
現金及び預金	132,678	139,033	支払手形及び買掛金	66,884	87,518
受取手形及び売掛金	102,129	137,701	短期借入金	93,752	170,747
有価証券	34,997	36,207	一年内償還予定社債	20,000	—
たな卸資産	82,419	117,933	未払費用	57,207	45,526
繰延税金資産	24,381	20,541	未払法人税等	11,529	7,059
その他	28,969	39,286	製品保証引当金	4,040	3,817
貸倒引当金	△ 3,399	△ 3,393	その他	36,314	57,521
固定資産	261,025	344,189	固定負債	135,879	186,028
有形固定資産	94,694	109,767	社債	60,000	60,000
建物及び構築物	35,087	37,847	長期借入金	55,425	112,579
機械装置及び運搬具	13,185	18,369	退職給付引当金	15,346	8,221
工具器具備品	29,172	35,038	役員退職慰労引当金	1,164	861
土地	15,217	15,715	その他	3,944	4,367
建設仮勘定	2,033	2,798	負債合計	425,605	558,216
無形固定資産	9,756	65,608	少数株主持分	1,097	14,043
連結調整勘定	256	52,804	(資本の部)		
その他	9,500	12,804	資本金	40,833	40,833
投資その他の資産	156,575	168,814	資本剰余金	65,528	65,528
投資有価証券	88,843	93,198	利益剰余金	133,298	154,034
出資金	26,362	27,544	その他有価証券評価差額金	4,445	3,956
繰延税金資産	16,267	9,687	為替換算調整勘定	△ 6,328	△ 3,036
その他	25,139	41,590	自己株式	△ 1,279	△ 2,077
貸倒引当金	△ 36	△ 3,205	資本合計	236,497	259,238
資産合計	663,199	831,497	負債、少数株主持分及び資本合計	663,199	831,497

中間連結損益計算書

科 目	決 算 期	
	前中間連結会計期間 自平成15年4月1日 至平成15年9月30日	当中間連結会計期間 自平成16年4月1日 至平成16年9月30日
	金額	金額
	百万円	百万円
売上高	299,664	308,723
売上原価	152,311	166,332
売上総利益	147,353	142,391
販売費及び一般管理費	113,879	124,107
営業利益	33,474	18,284
営業外収益	2,870	3,406
受取利息	192	221
その他	2,678	3,185
営業外費用	10,275	10,258
支払利息	2,179	2,491
持分法投資損失	1,647	851
スワップ評価損	1,329	—
為替差損	1,206	2,268
その他	3,914	4,648
経常利益	26,069	11,432
特別損失	621	190
投資有価証券評価損	189	43
出資金評価損	324	—
関係会社整理損	108	147
税金等調整前中間純利益	25,448	11,242
法人税、住民税及び事業税	13,719	7,782
法人税等調整額	△ 3,624	△ 3,254
少数株主利益(△損失)	△ 134	6
中間純利益	15,487	6,708

中間連結剰余金計算書

科 目	決 算 期	
	前中間連結会計期間 自平成15年4月1日 至平成15年9月30日	当中間連結会計期間 自平成16年4月1日 至平成16年9月30日
	金額	金額
	百万円	百万円
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	65,528	65,528
資本剰余金中間期末残高	65,528	65,528
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	119,867	149,397
利益剰余金増加高	15,487	6,708
中間純利益	15,487	6,708
利益剰余金減少高	2,056	2,071
配当金	1,980	1,977
取締役賞与金	72	94
自己株式処分差損	4	—
利益剰余金中間期末残高	133,298	154,034

中間連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	決 算 期	
	前中間連結会計期間 自平成15年4月1日 至平成15年9月30日	当中間連結会計期間 自平成16年4月1日 至平成16年9月30日
	金額	金額
	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,551	△ 3,379
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 22,575	△ 22,898
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,600	35,431
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 891	798
現金及び現金同等物の増加額	30,685	9,952
現金及び現金同等物の期首残高	55,944	69,095
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	232
現金及び現金同等物の中間期末残高	86,629	79,279

中間貸借対照表

科 目	決 算 期	前中間会計期間末 平成15年9月30日現在	当中間会計期間末 平成16年9月30日現在
	金 額	金 額	金 額
(資産の部)			
流 動 資 産		百万円	百万円
固 定 資 産			
有形固定資産		54,814	59,051
無形固定資産		4,645	5,787
投資その他の資産		125,305	156,435
資 産 合 計		432,536	448,971

科 目	決 算 期	前中間会計期間末 平成15年9月30日現在	当中間会計期間末 平成16年9月30日現在
	金 額	金 額	金 額
(負債の部)			
流 動 負 債		百万円	百万円
固 定 負 債			
負 債 合 計		227,092	234,090
(資本の部)			
資 本 金		40,832	40,832
資 本 剰 余 金		65,528	65,528
利 益 剰 余 金		97,132	107,437
その他有価証券評価差額金		3,203	3,160
自 己 株 式		△ 1,252	△ 2,076
資 本 合 計		205,444	214,881
負債及び資本合計		432,536	448,971

中間損益計算書

科 目	決 算 期	前中間会計期間 自平成15年4月1日 至平成15年9月30日	当中間会計期間 自平成16年4月1日 至平成16年9月30日
	金 額	金 額	金 額
売 上 高		百万円	百万円
売 上 原 価		206,685	210,426
売 上 総 利 益		129,081	143,520
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		77,603	66,906
営 業 利 益		16,629	2,831
営 業 外 収 益		60,973	64,074
営 業 外 費 用		3,613	6,419
経 常 利 益		15,431	3,593
特 別 利 益		-	837
特 別 損 失		512	55
税引前中間純利益		14,918	4,376
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		6,700	3,400
法 人 税 等 調 整 額		△ 1,679	△ 2,787
中 間 純 利 益		9,898	3,763
前 期 繰 越 利 益		4,977	4,988
合 併 に 伴 う 未 処 分 利 益 受 入 額		532	-
自 己 株 式 処 分 差 損		△ 3	-
中 間 未 処 分 利 益		15,403	8,752

会社の概要(平成16年9月30日現在)

設 立	大正 8 年 10 月 12 日
資 本 金	408 億 32 百万円
発行済株式の総数	264,472 千株
株 主 数	16,900 名
従 業 員 数	34,010 名 (連結ベース) 6,540 名 (単独ベース 出向者含む)
本 店	〒 151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号
本 社 事 務 所	〒 163-0914 東京都新宿区西新宿2丁目3番1号 新宿モノリス ☎(03)3340-2111 (代表) http://www.olympus.co.jp
事 業 場	八王子市、日の出町(東京都)、 辰野町および伊那市(長野県)
支 店	札幌、仙台、大宮、横浜、名古屋、大阪、広島、福岡
営 業 所	新潟、松本、静岡、つくば、金沢、京都、松山、 岡山、南九州(鹿児島)
海 外 拠 点	アメリカ、ドイツ、イギリス、中国、シンガポールほか
事 業 内 容	映像、医療、ライフサイエンス、産業およびその他の 製品の製造販売 ＜映像事業＞ フィルムカメラ、デジタルカメラ、録音機、MOドライブ ＜医療事業＞ 医療用内視鏡、外科内視鏡、超音波内視鏡、内視鏡処置具 ＜ライフサイエンス事業＞ 生物顕微鏡、血液分析機、ゲノム医療事業 ＜産業事業＞ 工業用顕微鏡、工業用内視鏡、プリンタ、バーコードスキャナ、測定機 ＜その他事業＞ システム開発ほか

<分社化について>

当社は平成16年10月1日付で、映像事業および医療事業をオリンパスイメージング株式会社およびオリンパスメディカルシステムズ株式会社として分社いたしました。

代 表 取 締 役 長	岸 本 正 壽
代 表 取 締 役 長	菊 川 剛
取 締 役	遊 佐 厚
取 締 役 専 務 執 行 役 員	寺 田 昌 章
取 締 役 専 務 執 行 役 員	宮 田 耕 治
取 締 役 専 務 執 行 役 員	小 宮 弘
取 締 役 専 務 執 行 役 員	高 橋 功
取 締 役 常 務 執 行 役 員	小 坂 信 也
取 締 役 常 務 執 行 役 員	大 久 保 雅 治
取 締 役 常 務 執 行 役 員	山 田 秀 雄
取 締 役 常 務 執 行 役 員	降 旗 廣 行
取 締 役 執 行 役 員	米 窪 健
常 勤 監 査 役	今 井 忠 雄
常 勤 監 査 役	雨 宮 忠 彦
監 査 役	島 田 誠
監 査 役	中 村 靖 夫
執 行 役 員	長 崎 達 夫
執 行 役 員	柳 澤 一 向
執 行 役 員	高 木 幹 夫
執 行 役 員	市 川 和 夫
執 行 役 員	森 嵩 治 人
執 行 役 員	鈴 木 正 孝
執 行 役 員	高 山 修 一
執 行 役 員	塚 谷 隆 志
執 行 役 員	栗 林 正 雄
執 行 役 員	五 味 俊 明